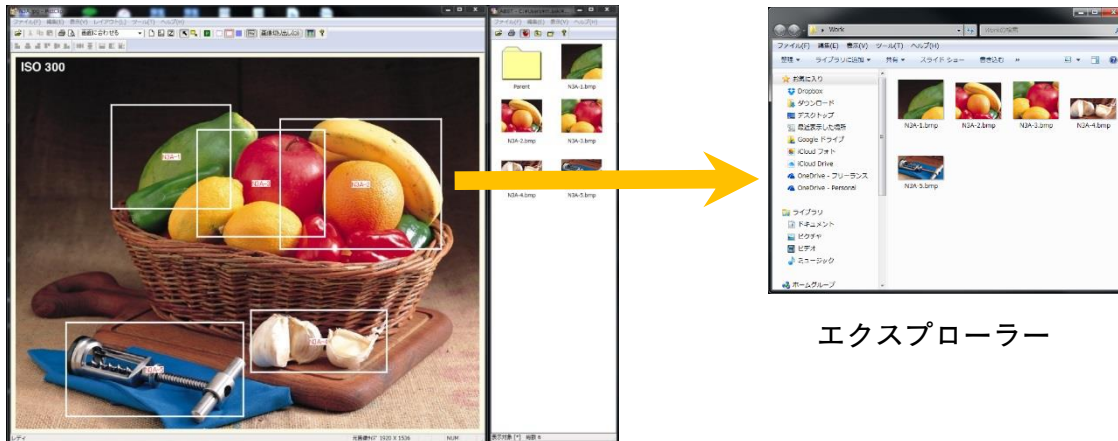


Windows 対応

PictClip For Web Contents

PictClipFWC ウィンドウ アブスト表示



PictClipFWC は、ひとつの画像から複数のエリアを一度に切り出すためのツールです。

最近のスキャナーには複数の対象物をならべてスキャンし、それぞれ個別のデータとして取り込む機能がつくようになりました。しかし、1枚の画像から複数のエリアを一度に切り出すことは、業務用のソフトでなければサポートしていません。

PictClipFWC は簡単な操作で複数エリアの切り出しをするだけでなく、出力画像のサイズ、データフォーマットの指定や回転、出力ファイル名の自動発生などができます。元の画像から1枚ずつ切り出していた今までの作業に比べ大幅に作業時間を短縮できるツールです。

PictClipFWC は WindowsXP、7、8.1、10 の各々x86 または x64 で動作します。

1 PictClipFWC の機能

PictClipFWC には次のような機能があります。


- ① 入力として扱える画像は、BMP、JPG、TIF、GIF、PNG、PSD フォーマットです。 α チャンネル付きの PNG も処理できます。
- ② 一度に 100 個まで切り出し枠を作成できます。各枠のプロパティは個別に設定することができ、これらを一括切り出しします。
- ③ 出力データタイプは、JPG、BMP、TIF、GIF、PNG をサポート。
- ④ 倍率(%)指定とピクセル数指定で切り出し画像の拡張サイズを指定できます。
- ⑤ ピクセル数指定の場合は指定色の背景矩形を付けることができます。
- ⑥ 切り出し時にシャープネスをかけることができます。
- ⑦ 切り出し時に画像を回転して出力することができます。
- ⑧ 出力ファイル名は指定した規則で自動生成、または任意設定できます。
- ⑨ 枠情報をファイルに記録し再利用することで異なる元画像から同一位置を切り出すことができます。
- ⑩ 記憶した枠情報を使い、複数の画像からデータを切出すバッチ処理が可能です。
- ⑪ 切り取り枠はレイアウトツールにより短時間で整列・配置することができます。
- ⑫ 画像変換ツールを使えば、大量の画像データをサイズやデータタイプなどを指定し、まとめて処理することができます。
- ⑬ 切り出しや画像変換の結果をアブスト表示からプリント出力できます。

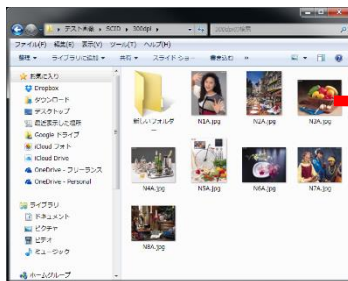
2 切り出してみましょう（基本操作）

2.1 画像を開く

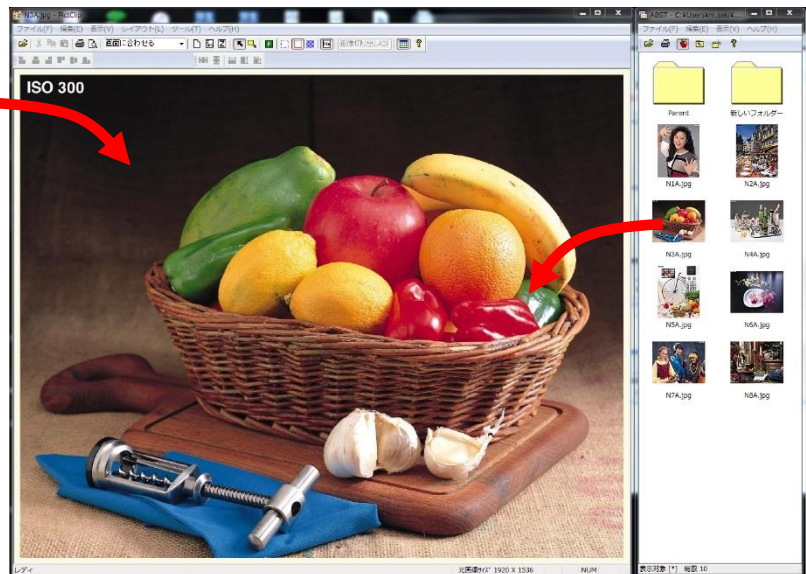
画像の取り込みには次のような方法があります。

- ① ツールバーのファイル(F)→開く(O)から画像ファイルを指定する。
- ② ファイルのウィンドウからドラッグアンドドロップする。
- ③ アブストからドラッグアンドドロップで開く。

※アブストはフォルダやファイルを表示するウィンドウでツールバーの  をクリックすると開きます。



エクスプローラーから
ドラッグアンドドロップ




アブストからドラッグアンドドロップ

2.2 切り出し枠の作成

枠を切り出すには切り取り枠作成モードにします。

モードを設定するにはレイアウト(L)→切り取り枠作成モード(S)を選択します。

ツールバーの  をクリックしても選択できます。切り出し枠は1つ作ると自動的に枠選択モードに切り替わってしまいます。複数の切り取り枠を連続的に作成したいときはシフトキーを押しながら作成してください。

切り出し枠の位置とサイズはマウスでドラッグするか、数値入力のいずれかでできます。ここではマウスのドラッグで切り出し枠を作ってみましょう。数値入力とはあとで説明します。

起点を指定し、終点までドラッグします。下の図のように切り出し枠が表示されます。



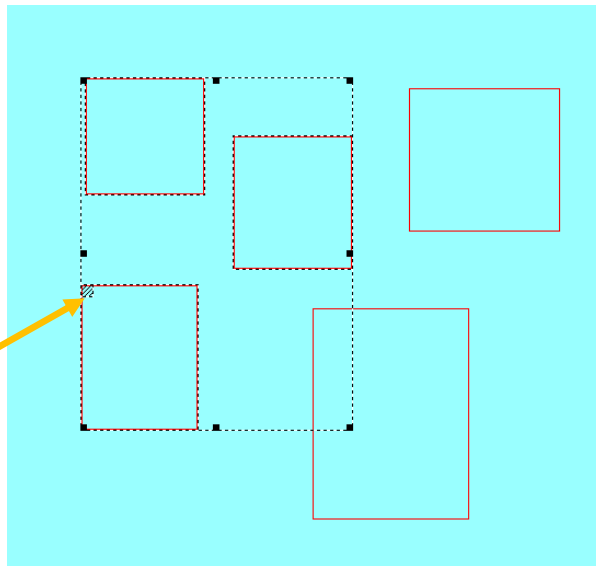
2.3 枠の選択

枠を選択するには、選択する枠をマウスでクリックします。あるいはマウスでドラッグして囲みでも選択することができます。また、ドラッグして複数の枠を一度に選択することもできます。

選択枠を追加するには、コントロールキーを押しながら、マウスでクリックまたはドラッグにより追加する枠を指定します。

また、複数の枠を選択する場合、最後に選択された枠には左上にマーカーが表示されます。これは、配置やサイズ・スペースバーの機能を使う場合に基準となる枠となります。意図的に選択する必要がありますので、複数枠を選択する場合、基準としたい枠は最後に追加選択するようにしてください。


基準枠のマーカー
最後に選択した枠に
表示されます。






2.4 枠の修正

枠を修整するには、切り取り枠選択モードにします。

モードを設定するには、レイアウト (L) → 切り取り枠選択モード (M) を選択します。

ツールバーの  をクリックしても選択できます。


選択されている枠にマウスカーソルを置くとポインターが  に変化します。この状態でシフトキーを押しながらマウスボタンを押下すると枠を移動できます。また8ヶ所のハンドルでは枠の拡大縮小ができます。いずれの場合もシフトキーを押しながらマウス操作をおこなうことが必要です。これは枠の位置やサイズが不注意なクリックで変化してしまうことを防ぐためです。シフト +  では枠がアスペクト比を維持したまま拡大・縮小します。自由に枠を変形させたい場合はシフト + コントロール +  で操作してください。

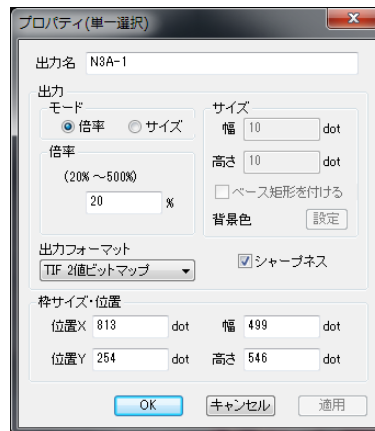
複数の枠が選択された場合にはそれを全て包含する矩形が表示されますが、この枠を拡大・縮小・移動・変形するとそれに伴い包含している選択枠も比例して拡大・縮小・移動・変形できます。

複数の枠を選択して拡大・縮小・変形する場合、キーリピートの操作で行うと累積誤差のため内包している枠が歪んでしまいます。このような場合にはマウスによりドラッグして一気に拡大・縮小・変形を行えば、誤差は±1ドットに収まります。

2.5 枠のプロパティ


作成した枠の属性を見てみましょう。

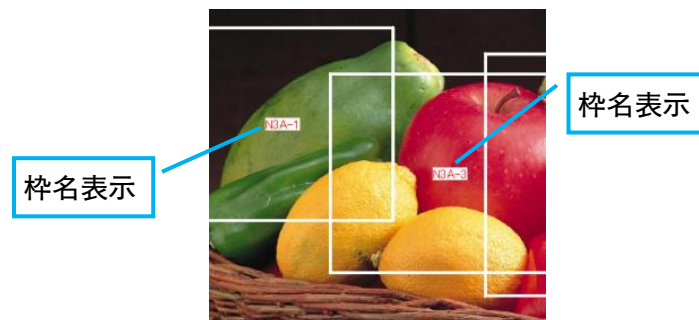
確認する枠をアクティブにして、表示(V)→プロパティ(P)をクリックするか、 をクリックするとプロパティダイアログボックスがあらわれます。ここでは画像の出力名などの属性を変更することができます。今は確認するだけにして「OK」をクリックします。



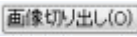
2.6 枠名表示

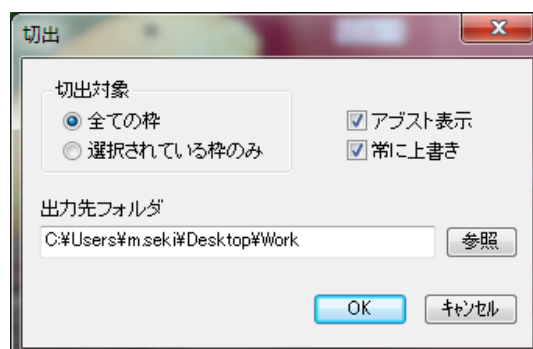
切り取り枠の枠名を表示してみましょう。

表示(V)→枠名表示(N)をクリックするか、 をクリックすると各切り出し枠に枠名が表示されます。枠名は上のプロパティダイアログボックスで任意に変更できます。(後述)

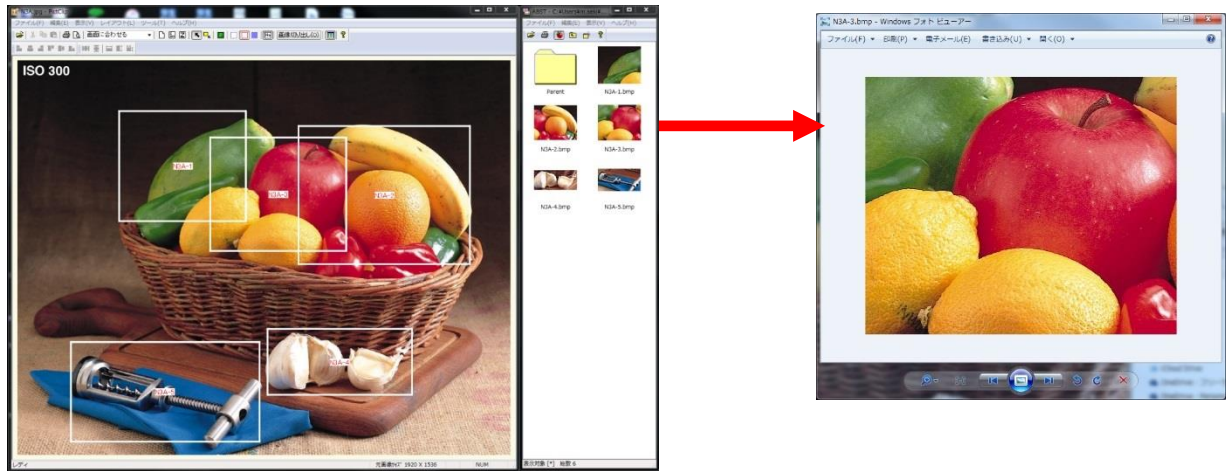


2.7 切り出し

レイアウト表示(L)→画像切り出し(O)、または  をクリックすると「切り出しダイアログボックス」があらわれます。切り出し対象を「すべての枠」にし、「アプストに表示」をチェックして「OK」ボタンを押します。



これで、切り出し作業は完了しました。切り出し指定した画像すべてが切り出され、アブストに表示されます。
アブストに表示されたサムネイルをダブルクリックしてみましょう。画像が拡大表示されます。






3 いろいろな機能

PictClipFWC の性能を確認いただいたところで、さらに高度な機能をためてみましょう。

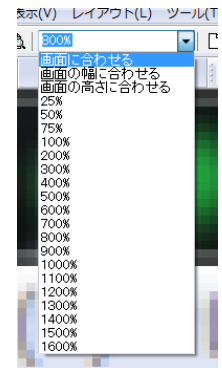
3. 1 全体表示、100%表示、任意ズーム

PictClipFWC には元画像の表示を行ういくつかのモードがあります。これらを使うことにより元画像の全体を見たり、細部を見たり自由に表示を行うことができます。


- 「全体表示」  を押すと、元画像の全体を表示領域いっぱいに表示します。
- 「100%表示」  を押し、マウスで元画像のどこかをクリックすると、クリックした場所を中心に 100%(画像 1dot が表示 1dot に対応)で表示されます。元画像の大きさが表示領域よりも小さい場合はそのまま 100%で全体が表示されます。
- 「任意ズーム」  を押し、マウスで元画像上で矩形領域をドラッグするとドラッグ下部分を画面いっぱいにて拡大表示します。

また、表示倍率はツールバーのコンボボックスで、自由に設定できます。

元画像表示位置のスクロールは ALT+矢印キーか、テンキーで行います。このとき Shift キーを押していると動きが加速します。詳しくは「付2. ショートカットキー一覧」をご覧ください。



3. 2 切り出し枠の色設定

枠の色は、デフォルトでは「輪郭(EXOR)」(画像輪郭の反転色)です。ツールバーの  はその指定をするものです。

このほかに画像の状態に合わせ 2 種の輪郭を選択できます。


(1) 輪郭色

表示(V)→輪郭色設定(C)を選択します。

「色の設定」ダイアグラムがでてきますから、任意な色を指定してください。

ここで設定した色はツールバーの  をクリックすることで選択できます。

(2) 面反転(EXOR)

枠内の画像が反転色で表示されます。ツールバーの  をクリックすると選択できます。

3. 3 枠情報記憶・枠情報読み出し


枠情報を記憶あるいは読み出しします。

記憶する場合は「ツール(T)」→「枠情報記憶(S)」を選択すると「枠情報ファイル記憶」ダイアグラムが表示されます。保存するフォルダを選択して保存します。

読み出す場合は「ツール(T)」→「枠情報読み出し(L)」を選択すると「枠情報ファイル読み出し」ダイアグラムが表示されます。読み出すファイルを選択して読み出します。

3. 4 出力ファイル名変更

「切り取り枠選択モード」で現在選択されている枠のプロパティでこの画像の名称を変更できます。

「表示(V)」→「プロパティ(P)」を選択するか、あるいはツールバーの  をクリックすることによりプロパティダイアログボックスを表示し「出力名」欄に入力します。

複数枠を囲んで指定すると、複数の画像に「同一名称」＋連番をつけることができます。

枠マクロ

画像を切出し枠を使って切出す場合、出力のファイル名は枠名となります。枠名は同一名があると同名前でファイルを上書きしてしまいますので、各枠の名前はユニークにする必要があります。このため、枠名にはドキュメント名と追番を自動的につけるためのマクロが用意されています。

マクロには以下のものが使用できます。

%D : ドキュメント名(切出す元画像の名前)をあらわします。

\$(n1, n2, n3) : 追番マクロ n1=開始値 n2=増分 n3=追番桁数

n1=n2=1 で n3=なしのときは省略可能

n3 を指定するときは n1=n2=1 でも省略不可

例 1 : %D-\$(1, 1)

%D-\$ に同じ

ファイル名が IMG. jpg の場合

IMG-1. jpg IMG-2. jpg IMG-3. jpg となります。

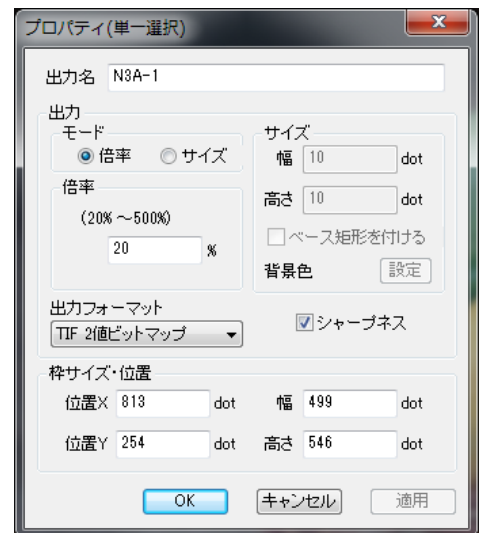
例 2 : 春\$(20, 2)

春 20. jpg 春 22. jpg 春 24. jpg となります。

例 3 : 画像-\$(1, 1, 3)

画像-001. jpg 画像-002. jpg 画像-003. jpg

※ 拡張子は出力フォーマット指定により変わります。



3. 5 切り出し元画像の画像変換とトリミング

PictClipFWC では、前述の画像変換と同様に切り出し元の画像を画像変換することができます。「編集 (E)」→「元画像変換 (G)」とすると「元画像変換」ダイアログが開きます。

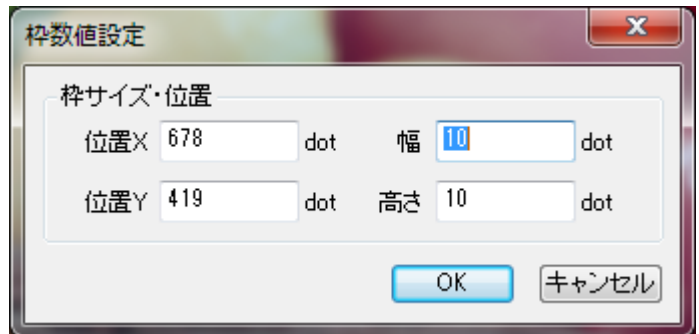


各パラメータは画像変換ダイアログの同名パラメータと同じです。「変換」ボタンを押すと元画像が変換され再表示されます。元画像変換は一度行くと、この変換は無効にすることができません (Undo が効きません)。変換を取りやめる場合は元画像をセーブせずに閉じて再度元画像のファイルを開いてください。トリミングは切り出し枠を作成し 1 つだけ選択状態とし、「編集 (E)」→「元画像のトリミング (T)」とすることにより行います。元画像変換と同様に元に戻すことはできません。

3. 6 切り出し枠の数値入力

切り出し枠の作成方法は 2.2 でお話ししましたが、そのほかに数値で入力する方法があります。

切り出し枠作成モードでコントロールキーを押しながらマウスをクリックすると切り取り枠のダイアログボックスが表示されます。これに数値を入力します。ポイントした位置が原点になります。



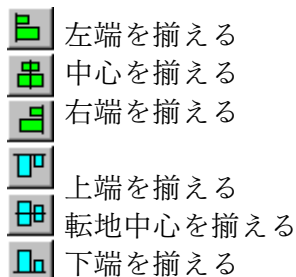
このように作成した切り取り枠はマウスでドラローイングした枠と同じように修整できます。

3. 7 複数枠の位置調整

「切り取り枠選択モード」で複数の画像を選択し、プロパティバーの 11 種のボタンで枠の相対的な位置調整ができます。選択する時はマウスで複数の切り取り枠をドラウし囲い込むと簡単です。

(1) 位置を揃える

2 個以上の切り取り枠を対象とします。



(2) 枠間スペース

3 個以上の切り取り枠を対象とします。

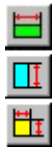


枠間スペースを左右方向均等化する

枠間スペースを天地方向均等化する

(3) エリアサイズをそろえる

2 個以上の切り取り枠を対象とします。



枠の幅を同じにする。

枠の高さを同じにする。

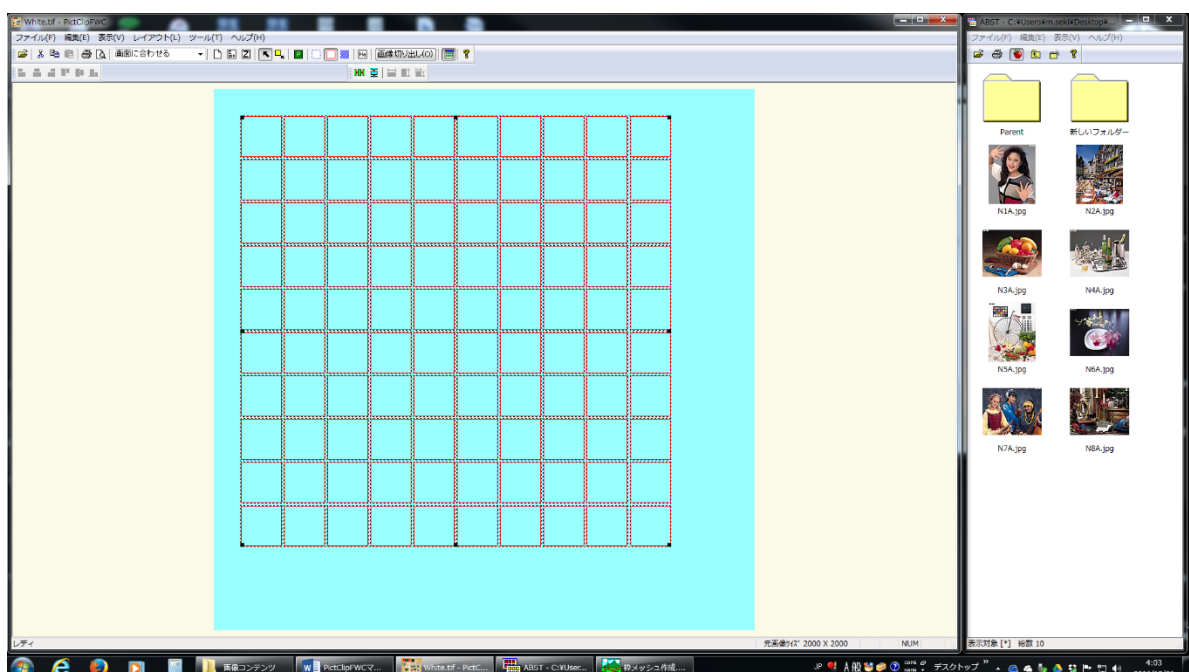
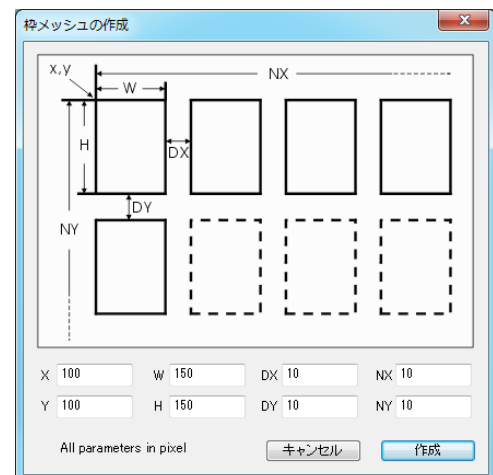
枠の幅と高さを同じにする。

3. 8 枠メッシュ作成

「ツール(T)」→「枠メッシュ作成(M)」を選択すると
枠メッシュ作成ダイアログが表示されます。

図に従い、パラメータを設定して「作成」ボタンを
押してください。視定数の枠が自動的に作成されま
す。作成できる枠は縦 10 枠、横 10 枠の合計 100 枠
です。

作成された枠は、1 つ 1 つ手で作成した枠と同じよう
に、移動・拡大・縮小・変形が可能です。



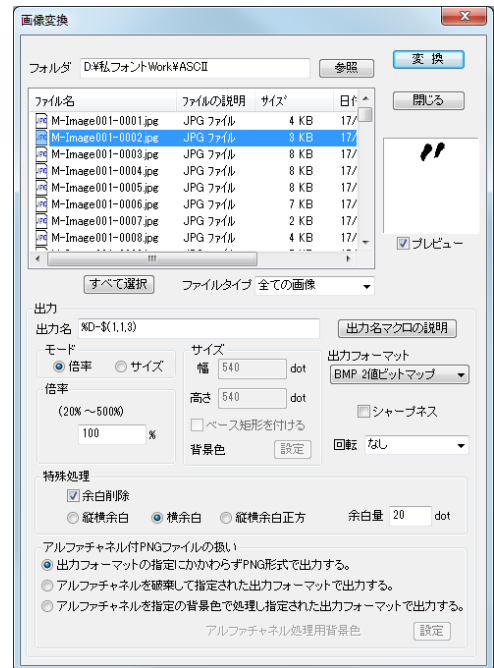
3. 9 画像変換

PictClipFWC には、画像変換機能があります。複数の画像をまとめて変換できます。

BMP, JPG, TIF, PNG, GIFなどを相互変換することができます。

「ツール(T)」→「画像変換(C)」を選択すると画像変換ダイアログボックスが表示されます。

- ① 変換するファイルが収容されているフォルダを選択します。
- ② ファイル名が収容されますので、対象のファイルを選択します。このときコントロールキーを使用すると複数のファイルを選択できます。「すべて選択」をクリックすれば表示全ファイルを選択できます。
- ③ ファイルタイプを選択します。
- ④ ファイルの出力名を入力します。
- ⑤ 「モード」で変換後の画像サイズを「倍率(%)」、または「サイズ」(ピクセル数)で指定します。
- ⑥ サイズ(ピクセル数)で指定した場合ベース矩形を作りそれに画像をはめ込んでサムネイルイメージで出力できます。指定は「ベース矩形を付ける」にチェックを付けます。
- ⑦ 出力フォーマットを選択します。
- ⑧ 画像にシャープネスを付けられます。
- ⑨ 画像を回転できます。(90度、180度、270度 時計回り)
- ⑩ 特殊処理で画像のまわりにある一様な色の余白を削除することができます。
- ⑪ PNGのアルファチャネルの扱いを選択することができます。

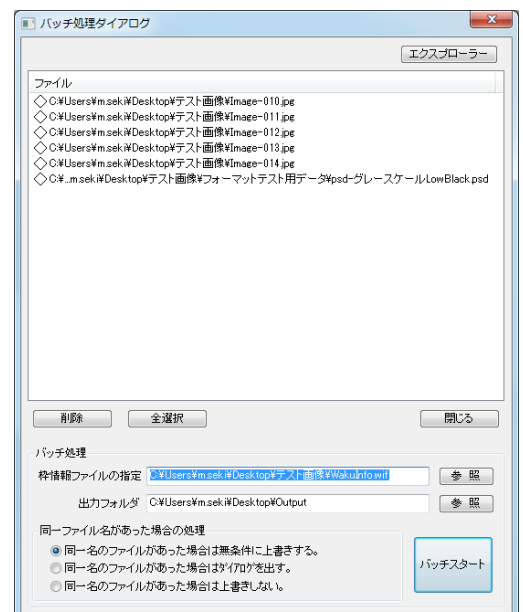


3. 10 バッチ処理

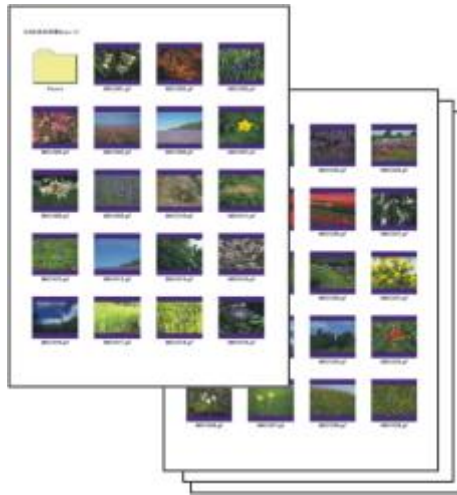
PictClipFWC には多数の元画像から枠情に従って画像を切り出すバッチ処理が搭載されています。これを使うことによりカタログなど一定のレイアウトを持つ複数の像から写真を連続的に切り出すことができます。

「ファイル(F)」→「バッチ処理(B)」とすると「バッチ処理ダイアログ」が表示されます。

- ① エクスプローラーから元画像をファイルペインヘッダラッグアンドドロップします。ファイルは複数登録することができます。また、このリストは永久記憶ですので削除するまでずっと残っています。
- ② 「枠情報ファイルを指定」事前にファイルに記憶した枠情報ファイルを指定します。
- ③ 「出力フォルダ」に切り取った画像を収納するフォルダを指定します。
- ④ 同一ファイル名があった場合の処理を選択します。
- ⑤ 「バッチスタート」ボタンをおします。処理が始まり次々と指定された画像が読み込まれ切り出し処理が行われます。



3. 1 1 アブストのプリントアウト



アブストウィンドウで表示している内容を、印刷することができます。この時用紙の大きさにあわせてサムネイルが自動配置されます。

これにより切り出し結果や、画像変換の結果を確認することができます。

また、仮想プリンタ方式の PDF 作成ソフトを使って Abst のプリントアウトを PDF に変換すれば、簡易電子カタログを作成することができます。

※Abst をお使いになる際には、「編集(E)」→「カタログ保存(C)」にチェックを入れてください。このチェックがないと、移動したフォルダのファイルアイコンを毎回作ってしまい表示までに時間がかかります。

3. 1 2 クリップボードの便利な使い方

PictClipFWC ではクリップボード経由で画像を外部とやり取りできます。

クリップボードから読み込むためには「ファイル(F)」→「クリップボードから開く(M)」、クリップボードへ元画像を書込むには「ファイル(F)」→「クリップボードへコピー(J)」とします。

この機能を使い「画面コピーから画像をトリミングしてワードに直接貼り付ける。」というような便利な使い方ができます。

これには、以下の手順を踏みます。

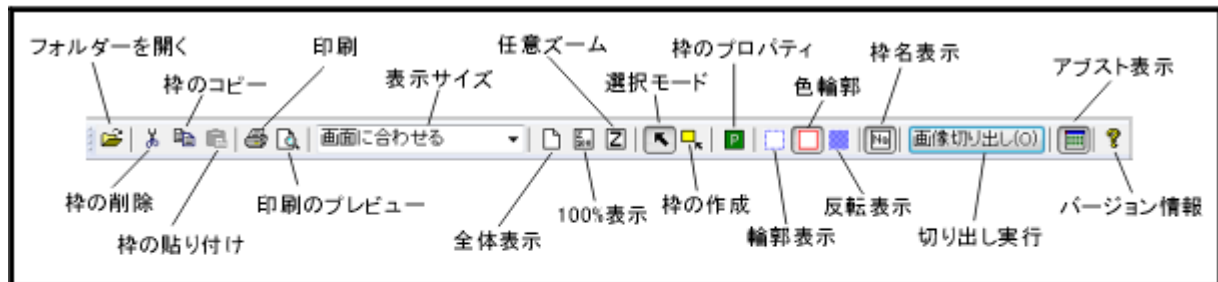
- 1) Ctrl+Alt+PrintScreen で画面コピー
- 2) PictClipFWC で「ファイル(F)」→「クリップボードから開く(M)」で開く。
- 3) PictClipFWC 上で、トリミング枠を作成し、選択する。
- 4) PictClipFWC 上で「編集(E)」→「元画像のトリミング」でトリミングする。
- 5) PictClipFWC 上で「ファイル(F)」→「クリップボードへコピー(J)」でクリップボードに書込む
- 6) ワード上で読み込む位置にカーソルを合わせ Ctrl+V で貼付ける。

説明書を作るときなど、非常に便利に使えます。

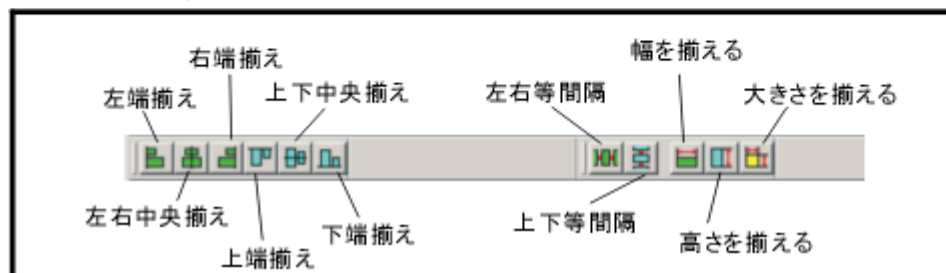
付1. ツールバー・配置バーの内容

ツールバー・配置バーの機能は次の図の通りです。
 なお、配置バーは画面のどこにでも移動できますので、作業しやすいように移動してください。

ツールバーの内容



配置バーの内容



付2. ショートカットキー・特殊操作一覧

●ズーム関連

F1	画像全体表示
F2	リズーム
F3	ズーム
F4	幅あわせ表示
F5	1つ前の画面状態に戻る
F8	マニュアルズーム

●枠配置関連

Shift + マウス 枠移動、サイズ変更
Shift + Ctrl + マウス 枠変形

Ctrl + L	整列 左
Ctrl + H	整列 左右中央
Ctrl + R	整列 右
Ctrl + T	整列 上
Ctrl + M	整列 上下中央
Ctrl + B	整列 下

Ctrl + D	縦に均等配置
Ctrl + E	横に均等配置

Ctrl + I	同じサイズに揃える 幅
Ctrl + J	同じサイズに揃える 高さ
Ctrl + K	同じサイズに揃える 両方

●枠操作関連

Ctrl + マウスピック 数値指定枠作成

Ctrl + C	コピー
Ctrl + X	切取り
Ctrl + V	貼付け

Ctrl + A	全枠選択
----------	------

↑	枠上移動(移動量小)
↓	枠下移動(移動量小)
←	枠左移動(移動量小)
→	枠右移動(移動量小)

Shift + ↑	枠上移動(移動量大)
Shift + ↓	枠下移動(移動量大)
Shift + ←	枠左移動(移動量大)

Shift + →	枠右移動(移動量大)
Ctrl + ↑	枠縦縮小(Shift で変形量大)
Ctrl + ↓	枠縦拡大(Shift で変形量大)
Ctrl + ←	枠横縮小(Shift で変形量大)
Ctrl + →	枠横拡大(Shift で変形量大)

●ファイル関連

Ctrl + O	開く
Ctrl + S	上書き
Ctrl + W	上書き保存して閉じる

●画像移動関連

Alt + マウスドラッグ 画像移動

10 キー 8	画像上移動
10 キー 2	画像下移動
10 キー 4	画像左移動
10 キー 6	画像右移動
10 キー 7	画像左上移動
10 キー 9	画像右上移動
10 キー 1	画像左下移動
10 キー 3	画像右下移動

Home	画像の左上へ移動
End	画像の右下へ移動
PageUp	画像を 1 ページアップ
PageDown	画像を 1 ページダウン

●その他

Ctrl + N	画像切出し
Ctrl + F	画像変換ダイアログ
Ctrl + G	元画像変換ダイアログ
Ctrl + Q	枠選択モード
Ctrl + U	枠作成モード
Ctrl + Y	やり直し
Ctrl + Z	取消し